

	達成指標	基準値	R6目標値	戦略年度					総括	
				2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)		
重要目標	1 住み続けたいと思う市民の割合（定住意向）	79.7%	85.0%	79.4%	77.6%	77.9%			・人口社会増減率は昨年度より改善したが、若者の転出超過傾向は続いており、依然として厳しい状況である。	
	2 人口社会増減率（純減数/期首人口）	△0.49%	△0.33%	△0.66%	△0.74%	△0.52%				
	3 若者（15歳～39歳）の転出超過数（転入者数－転出者数）	△1,101人（H27～R1）	△528人（R2～R6の期間中合計）	△268人	△287人	△226人				
	4 健康寿命	男性 76.94歳 女性 81.48歳	77.50歳 82.00歳	78.35歳 81.54歳	78.08歳 81.25歳	（算定前） （算定前）				
	評価指標	基準値	R6目標値	戦略年度					総括	
				2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)		
基本戦略Ⅰ（住みたい街） 重要業績	基本目標1 若者・女性のふるさと氷見での定着と還流（Uターン）									
	【基本目標1】									
	i 地方創生を支える人材・組織の育成									
	「ぶり奨学プログラム登録者のうち、指定措置を行った累計人数」									
	①ぶり奨学プログラム登録者のうち、指定措置を行った累計人数	29人	84人	29人	45人	60人				ぶり奨学プログラムを利用（指定措置を申請）して氷見市にUターンされる方が増えてきており、卒業後しばらくたってからUターンされた方もいる。
	②親子地域産業体験に参加した人数	20人	120人	0人	0人	0人				（指定措置を申請）して氷見市にUターンされる方が増えてきており、卒業後しばらくたってからUターンされた方もいる。
	③おらっチャ創生支援事業の取り組み件数	10件	20件	10件	14件	13件				若い女性が希望する就職先が少ない等の理由が影響していると考えられる。
	ii 若者・女性の定着・Uターン支援									
	①おらっチャ創生支援事業のうち「価値提供型事業」に取り組んだ件数	6件	14件/年間	5件	8件	5件				「20代・30代の女性のUターン者数」
	②20代・30代の女性のUターン者数	70人	80人/年間	71人	51人	59人				若い女性が希望する就職先が少ない等の理由が影響していると考えられる。
	iii ふるさと氷見への郷土愛の育成									
	①氷見が好きだと感じている市民の割合	82.6%	84.4%	83.4%	82.1%	83.0%				若い女性が希望する就職先が少ない等の理由が影響していると考えられる。
	②地域の行事に参加している児童・生徒の割合	小学生 74.2% 中学生 70.2%	80.0%	72.4%	66.8%	69.3%				
	基本目標2 「里山、里海での生活が同時にかなうまち氷見」への移住・定住（I・Jターン）と多様な交流の実現									
	【基本目標2】									
	i 氷見暮らしの魅力や充実した子育て・教育・福祉等の情報発信									
	「SNSの登録者数」									
	①市ホームページ及びI・J・U応援センターホームページのアクセス件数	173万件	190万件/年間	227万件	213万件	192万件				積極的な情報発信により、市公式LINEアカウントの登録者が順調に増加している。
	②SNSの登録者数	5,230人	21,000人	5,230人	10,645人	14,313人				「I・J・U応援センターを通して移住した人数」
	ii 子育て世帯、起業人材、クリエイティブ人材などの移住・定住支援									
	①I・J・U応援センターを通して移住した人数	25人	40人/年間	16人	38人	42人				単身者だけでなく、子育て世代や家族世帯の移住が増えたため、目標値を上回った。
	iii 多様な関係人口の創出・拡大									
	①氷見きときとファンクラブ会員数	—	1,900人	327人	856人	1,299人				「芸術文化館利用者数」
	iv スポーツ・芸術・文化等を通じた交流人口の拡大									
	①主要なスポーツイベント参加者数	27,291人	27,400人/年間	4,876人	7,144人	19,239人				10月オープン以降、開館記念事業の開催や市民団体等による活動発表の場として、市内外から多くの利用者があった。
	②芸術文化館利用者数	—	100,000人/年間	—	—	70,046人				
V 国際交流の推進										
①海外の友好都市との交流した人数	27人	100人/年間	6,725人	2,398人	4,875人				【基本目標3】	
基本目標3 安全で安心して暮らせる基盤の充実										
【基本目標3】										
i 災害に強い社会の実現										
地域への支援や専門職等になく仕組みづくりの支援を行ったことにより開設地区が増加した										
①防災士の資格を持つ人数	79人	204人	104人	125人	138人					
②SNSを活用した情報伝達システムの利用者数	0人	7,500人	1,645人	5,211人	7,497人					
③急傾斜地崩壊防止対策（県・市）の実施箇所数	159箇所	162箇所	160箇所	161箇所	161箇所					
④防災重点農業用ため池の改修（県）完了箇所数	6箇所	12箇所	6箇所	7箇所	9箇所					
⑤河川浚渫（県・市）実施箇所数	6箇所	48箇所	20箇所	27箇所	34箇所					
ii 地域医療の充実										
①市内の医療機関の数	51医療機関	47医療機関	49医療機関	49医療機関	48医療機関					
②救急覚知から現場到着までに要する時間	8.6分	7.2分	8.3分	7.6分	8.0分					
iii 地域包括ケアシステムの推進										
①福祉相談窓口の開設地区数	9地区	21地区	9地区	14地区	17地区					
iv 安全で安心な日常生活が送れるまちの実現										
①鳥獣による人身及び物損被害の発生件数	4件	0件/年間	0件	0件	0件					
②防犯カメラの設置補助台数	26台	49台	26台	31台	47台					

評価指標	基準値	目標値	戦略年度					総括
			2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	
基本目標4 持続可能な地域社会の体制・仕組みの確立								【基本目標4】 「地域づくり協議会の設置数」 持続可能な地域づくりを行っていくという地域住民の当事者意識の醸成が進み、新たに基石地区に協議会が設置された。 【基本目標5】 「住民主体の通いの場の実施箇所数」 体操の効果について地域の関心が高く、年々増加していたが、コロナ禍により一時的な活動休止など自粛傾向が続いている。
i 小規模多機能自治の基盤整備と地域内分権の推進								
①地域づくり協議会の設置数	7地区	18地区	8地区	12地区	13地区			
ii 多様性を認め合える社会づくり								
①平等と多様性が尊重されていると思う市民の割合	40.5%	60.0%	45.4%	44.5%	42.3%			
iii 交通弱者の移動手段の確保								
①市内のどこかへ行きたいときに、利用できる移動手段があると思う市民の割合	85.0%	89.2%	87.7%	87.4%	89.2%			
iv Society 5.0の実現に向けた技術の活用								
①Society 5.0の実現に向けた技術を活用した取組件数	0件	4件	1件	1件	1件			
基本目標5 いきいきと暮らし続けるための健康的自立								
i 市民の健康意識の醸成								
①特定健診の受診率	46.0%	60.0%	42.4%	47.9%	46.8%			
ii 良い生活習慣の定着による健康増進プログラムの推進								
メタボリックシンドローム該当者の割合	26.3%	対前年度比減	26.3%	26.1%	(速報値) 24.8%			
メタボリックシンドローム予備軍の割合	9.7%	対前年度比減	9.7%	11.0%	(速報値) 9.5%			
iii 地域づくりによる介護予防対策								
①住民主体の通いの場の実施箇所数	80箇所	100箇所	94箇所	95箇所	95箇所			

基本戦略Ⅰ（住みたい街）
重要業績

第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

	達成指標	基準値	R6目標値	戦略年度					総括	
				2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)		
重要目標	1 納税義務者1人当たり所得	260万円	270万円	266万円	271万円	254万円			観光入込客数の回復に加え、消費喚起施策の影響により、観光消費額は目標値を大幅に上回った。	
	2 雇用保険適用事業所の被保険者数	8,833人	9,000人	8,558人	8,710人	8,736人				
	3 新規求人数	総数	4,922人	5,000人	3,209人	3,847人	3,903人			
		フルタイムのみ	2,577人	2,600人	1,611人	2,088人	2,181人			
4 観光消費額	168億円	186億円	110億円	114億円	191億円					
	評価指標	基準値	R6目標値	戦略年度					総括	
				2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)		
基本戦略Ⅱ（働きたい街）	基本目標1 氷見市内での経済活動の規模拡大								【基本目標1】	
	i 地域内消費の促進								「地域内商品券の販売額」	
	①地域内商品券及び地域電子通貨の販売額	7,536万円	8,000万円	7,237万円	6,241万円	13,782万円			県補助制度を利用した還元率の高いキャンペーンを実施したことにより、倍増した。	
	②日頃から氷見市の産品を積極的に買っている市民の割合	56.6%	63.8%	61.5%	60.2%	57.3%			「ビジネスサポートセンターの相談件数」	
	ii まちなかの賑わいの創出								認知が広まったことに加え、専門員の配置により相談体制を強化したことで、2年連続で目標を達成しており、「中心市街地の出店件数」や「創業件数」といった指標にも好影響を与えていると推測される。	
	①中心市街地への出店件数(累計)	3件	33件	8件	16件	24件				
	iii 創業（事業承継）の支援									
	①創業件数（事業承継も含む）	10件	12件／年間	7件	11件	17件				
	iv 既存企業の競争力強化									
	①ビジネスサポートセンターの相談件数（年間）	0件	1,000件／年間	850件	1,231件	1,155件				
	基本目標2 氷見ならではの魅力・強みを生かした観光振興								【基本目標2】	
	i 地域資源を活かした滞在型観光の推進								「観光入込客数」	
	①観光入込客数	217万人	196万人	127万人	124万人	190万人			コロナ禍で開催を見送っていた各種イベントが再開されたことに加え、全国旅行支援などの観光需要喚起施策の影響により、回復している。	
	②平均滞在時間	3時間21分	3時間40分	2時間59分	3時間18分	3時間2分				
	ii インバウンドの誘致									
	①外国人宿泊客数	7,017人	10,160人	461人	1人	121人				
	基本目標3 氷見の海・里・山の幸の魅力や、特性を活かした産業振興								【基本目標3】	
	i 新たな食の氷見ブランドの確立								「都市部で開催する氷見の食に関するイベントの参加者数」	
	①都市部で開催する氷見の食に関するイベントの参加者数	0人	500人／年間	0人	935人	2,636人			首都圏の関係店舗（ツナグ場）の登録店舗数を増加したこと、また、魅力あるイベントの開催により、大幅に参加者数が増加した。	
	②自然栽培・有機栽培を行う農業者数	36人	35人	33人	29人	29人				
ii 既存のブランドの販路拡大								【基本目標4】		
①学校給食等での氷見産食材の使用割合	5%	30%	11.6%	18.0%	20.9%			「事業承継」		
②氷見牛の飼育頭数	715頭	730頭	673頭	688頭	691頭			ビジネスサポートセンターやIJU応援センターの支援により、飲食店の事業承継が実現した。		
③地場産木材の生産量	16,747㎡	20,800㎡	12,100㎡	16,703㎡	16,165㎡					
④地域ブランド調査における魅力度の順位	177位	対前年度比上昇	163位	237位	195位			「リカレント教育を受けた女性の数」		
iii 第一次産業の6次産業化の推進								地域活性化起業人や地域おこし協力隊による積極的な活動を行ったが、参加数が伸び悩んでいる。		
①6次産業化の取り組みによる新商品開発数	8品	12品	8品	8品	5品			【基本目標5】		
基本目標4 産業人材の育成・確保								「市内へ進出した企業または研究機関等の件数」		
i 農林水産業・商工業の担い手の育成・確保								市外企業からの企業立地や市内企業の工場等増設に関する相談実績は増えているが、企業の進出に結びつかなかった。		
①集落営農組合組織化件数（任意の組合を含む）	42団体	42団体	42団体	42団体	42団体					
②事業承継件数(累計)	1件	6件	1件	2件	3件					
③リカレント教育を受けた女性の数	0人	3,700人	172人	382人	351人					
ii 働きがいを感じることができる魅力的なしごとの創出										
①従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備に取り組む企業の数	77社	87社	75社	77社	73社					
②高齢者の就職率	39%	42%	31.0%	36.9%	36.9%					
③障がい者の就業状況	78.2%	80.0%	71.8%	69.0%	69.6%					
④外国人の日本語教室への参加者数	94人	95人／年間	65人	96人	160人					
基本目標5 企業誘致の推進										
i 地元雇用に結びつく優良企業や研究機関等の誘致										
①市内へ進出した企業または研究機関等の件数（企業立地助成金を新規に交付した件数）	0件	4件	0件	0件	0件					

第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

重要目標	達成指標	基準値	R6目標値	戦略年度					総括
				2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	
重要目標	1 婚姻数	141件	150件	127件	123件	80件			コロナ禍により、結婚の前提となる交際のきっかけそのものが減り、それが、時間差で婚姻数の急激な減少につながったと考えられる。
	2 出生数	189人	230人	206人	189人	185人			
	3 子ども女性比	0.165	0.202	0.169	0.163	0.163			
重要業績	評価指標	基準値	R6目標値	戦略年度					総括
				2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	
基本戦略Ⅲ（育てたい街）	基本目標1 結婚の希望をかなえ、子どもを中心として多様な家族が幸せを実感できる生活の実現								【基本目標1】
	i 人生設計を考える機会の増加								「おせっかいさんによる引き合わせ件数」 積極的な活動実施により、過去最高の件数を達成した。
	①将来の夢や目標を持っている中学生の割合	71.1%	72.5%	67.2%	72.9%	67.9%			
	②自分の人生設計を持っている高校生の割合	-	75.0%	-	36.5%	26.9%			
	ii 出合いの場の創出、地域の応援・支援による婚姻率の向上								【基本目標2】 「不妊治療に係る助成申請件数」 令和4年度から不妊治療が保険適用となり、治療終了後から1年以内の申請が可能となったため、助成申請のペースが落ちたと考えられる。
	①おせっかいさんによる引き合わせ件数	22件	40件／年間	41件	36件	42件			
	基本目標2 妊娠・出産に関わる負担の軽減								【基本目標3】 「子育てや教育に不安を感じた時身近に相談できる人がいる市民の割合」 コロナ禍により交流機会が減り、減少した。
	i 安心して出産できる環境の整備								
	①市内分娩施設数	1施設	1施設	1施設	1施設	1施設			
	ii 妊娠・出産に関わる経済的・精神的負担の軽減								【基本目標4】 「ぶり奨学プログラム登録者数」 制度の周知が進み、一定数の登録があった。
	①不妊治療に係る助成申請件数	40件	99件／年間	87件	80件	51件			
	iii 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の推進								【基本目標5】 「海浜植物園の入園者数」 夏季の子供向けイベントが盛況であった影響を受け、目標値を大幅に上回った。
	①出産前後の相談件数	1,350件	1,400件	1,288件	1,397件	1,483件			
	基本目標3 多様な家族に対するきめ細やかな支援、子どもの健やかな成長を育む保育の充実								【基本目標4】 「ぶり奨学プログラム登録者数」 制度の周知が進み、一定数の登録があった。
	i 子育てに関わる経済的・精神的負担の軽減								
	①子育てや教育に不安を感じた時身近に相談できる人がいる市民の割合	76.1%	79.4%	78.2%	73.5%	72.3%			
	ii 子どもの生きる力を育成する保育・教育の充実								【基本目標5】 「海浜植物園の入園者数」 夏季の子供向けイベントが盛況であった影響を受け、目標値を大幅に上回った。
	①待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人			
	基本目標4 次代を担う子どもを育む学校教育の実現								【基本目標5】 「海浜植物園の入園者数」 夏季の子供向けイベントが盛況であった影響を受け、目標値を大幅に上回った。
	i 教育に関わる経済的負担の軽減								
①ぶり奨学プログラム登録者数	166人	350人	239人	271人	300人				
ii 子どもの生きる力を育成する学校教育の充実									
①学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合									
	小学生	81.7%	90.0%	-	82.0%	85.0%			
	中学生	87.0%	90.0%	-	80.3%	81.8%			
基本目標5 仕事と家庭を両立しながら、子育てを楽しみと感じられる社会の実現								【基本目標5】 「海浜植物園の入園者数」 夏季の子供向けイベントが盛況であった影響を受け、目標値を大幅に上回った。	
i 子育てと両立するワーク・ライフ・バランス（仕事と私生活の調和）の推進									
①子育てと仕事両立しやすい環境であると感じている市民の割合	58.0%	65.0%	64.2%	64.3%	60.3%				
②仕事と子育ての両立ができていると思う市民の割合	69.4%	75.0%	66.4%	69.8%	64.4%				
ii 職場と子育て支援施設の連携									
①市内保育所・認定こども園の延長保育実施率	80.0%	100%	80.0%	85.7%	85.7%				
iii 子どもが安心して遊び・学ぶことができる環境の整備									
①子供が安心して遊べる環境であると感じる市民の割合	54.0%	60.0%	69.2%	64.8%	61.2%				
②海浜植物園の入園者数	45,000人	65,000人／年間	41,382人	74,302人	87,172人				